

平成18年度予算編成方針の概要

1 本市を取り巻く財政環境と今後の見通し

国は「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2005」において、18年度予算を「構造改革の総仕上げ」に向けた重要な予算と位置付け、義務的経費を含めた聖域なき見直しを行い、地方歳出についても徹底的に見直すなど、改革路線の堅持・強化を図ることとしている。

本市においては、基幹となる市税収入がほぼ横ばい傾向であるうえに、「三位一体の改革」による国庫支出金改革、税源移譲や地方交付税改革などの変革期にあって、先々の見通しが極めて不透明となっている。また、扶助費や他会計への繰出金も増加し、仮に17年度と同等の一般財源が確保できたとしても、来年度は200億円程度の財源不足が見込まれており、これまでとは根本的に異なる厳しい環境におかれている（別紙1）。

2 予算編成の基本的考え方

実感を共感する予算～「市民の力みなぎる、文化と誇りあふれる街」の実現～

平成18年度は市長任期の最終年度であり、さっぼろ元気プランを着実に実施し、取組の成果を市民に実感してもらうことに加え、市役所改革の動きを継続し、市民との信頼関係を構築することにより、**実感を共感する年**と位置付け、定数や機構編成とも一体化した考え方のもとで予算を編成する。

中期財政見通しから収支状況がさらに悪化する見通しであることから、事業の選択と集中、「出資団体改革プラン」、指定管理者制度及び行政評価の取組等により、更なる経費の節減を図る。また、他部局や民間等と協働することにより、札幌市全体としてより効率的・効果的な事業展開ができるよう連携を図ることとする。

3 予算編成のポイント

(1) 行政評価における検証結果を踏まえた予算編成

本年度実施した行政評価における検証結果を踏まえ、事業実施による費用対効果や真に行政が担うべき事業領域であるか等を再検証する視点で予算編成を行う。

(2) 局・区マネジメント機能の強化

局配分経費の設定

各局が主体的に予算編成を行う局配分経費として、次の経費の合計額を配分する。

- ・ 経常的経費については、次の合計額を前年度局配分一般財源額から減額して設定（全局平均 4.6%）
財政構造改革プランにおける各局の平成18年度見直し必要額
財政構造改革プラン策定後に発生した状況変化による財源不足に対応するものとして、前年度局配分一般財源額の2.0%に相当する額
ただし、前年度局配分一般財源額が10億円に満たない局については、平成18年度見直し必要額を削減額とする
- ・ 臨時的経費については、各局のゼロベースからの事業再構築を促進するため、前年度局配分一般財源額から20%を削減して設定

(3) 「選択と集中」の促進

「さっぼろ元気ビジョン」の実現に向け、特に重要な政策課題に関するものについては、元気プランで掲げた具体的事業や取組の方向性に基づき、局配分経費とは別に予算編成を行う。また、全庁的な取組である公共施設の長寿命化に係る事業についても、局配分経費とは別に予算編成を行う。

(4) 予算編成プロセス公開の充実

よりわかりやすい情報公開と市民意見等の予算への反映

各局の予算要求の内容や、予算要求の全体像を網羅した「予算要求の概要」を新たに作成し、よりわかりやすく市民の皆さんにお伝えする。また、市民意見等をコールセンターの活用などにより集約し、予算に反映する。

(5) 収納率向上のための取組

収納率向上計画の作成と予算への反映

収入未済額の圧縮に向け新たに設置した収納率向上対策連絡調整会議での検討を踏まえ、担当部において収納率向上計画を作成し、その計画での取組を予算に反映する。

(6) 建設債の発行抑制

市債要求枠の設定

将来世代に過度の負担を残さないため、主要公共事業等に充当する市債の額は、制度変更等がない限り、原則として、各局の前年度予算額から20%削減した額を上限とする。